

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590200095		
法人名	医療法人爽林会		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	都城市高城町穂満坊3213-2		
自己評価作成日	平成25年5月12日	評価結果市町村受理日	平成25年7月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvCd=4590200095-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年5月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気軽に訪問できる施設である。四季折々の花々や、畑で育てた野菜を収穫したりと、季節感を味わうことが出来る。利用者一人ひとりの出来る範囲で、農作に参加していただき、農作業の苦勞や、収穫の喜びを体感できる。そういった活動を通して、利用者さんだけでなく、職員の”遣り甲斐”にもつながっている。また、併設の診療所があり、利用者さんやご家族に安心して暮らせる場所であると喜んでいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の笑顔などを職員だけで味わうのはもったいないとの考えから、日ごろのホームでの利用者の生活風景をデジタルカメラで撮り、フォトムービーにして、家族が訪問するときは観てもらっている。特に遠方にある家族には喜ばれている。職員は全員、利用者を抱きしめて愛情を表現している。また、職員皆が、利用者全員に頻りに声をかけている。利用者や家族の立場に立って考えようという姿勢が職員にあるため、その観点からの意見や提案がよく出され、支援につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議の際にも、資料の頭に記載し、職員だけでなく、メンバーの方々にも知っていただき、実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を職員全員で話し合い作成している。そのため職員は、理念を理解しているだけでなく、具体的な取り組み方を行えるようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、利用者だけでなく、そのご家族も含めて、花や野菜の植え方の情報交換や収穫したものをお互いに御裾わけしたりと、日常的に交を図っている。	地域の方が、ホーム菜園での作物作りの指導や収穫にも参加するなど、地域とのつきあいは密接である。地域の文化祭に家族の了解を得て写真展示を行い、地域にホームが更に知られるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民との防災訓練を毎年実施しており、認知症への理解を深めていただいております。日常のあらゆる場面において、提案もいただきながら支援につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や行事報告をはじめ、外部評価や実施指導も議題に取り上げご意見をいただき、サービス向上に取り組んでいる。	利用者も意見や提案を述べるなど、話が弾む会議となっている。多彩な委員やタイムリーな話題を取り上げるなど、意味深い内容となっている。提案が生かされて、地域とのかかわりが深まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき、文化祭などの展示にも協力していただき、協力関係にある。	運営推進会議の案内やその後の報告書を市の支所の担当者に持って行き、そこでの話の中で担当者から情報を得るなど、良い関係が成立している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解しており、拘束のないケアに努めている。	玄関は開錠され、見守りによる支援がなされている。経管栄養の利用者は、家族の同意を得て、夜間だけ最低限の処置をしているが、日中はリビングで見守って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在のケアが虐待に繋がっていないか？など常に意識し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいないが、研修会等に参加し、知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の祭は、書類を通して時間をかけて説明し、同意を得た上で、署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の機会などを利用し、要望などを聴き取り、必要に応じて、業務会議、運営推進会議等で報告している。	家族が来訪されたときは、積極的に意見を述べてもらっている。慣れによる問題が生じていないかの有益な判断材料となっている。利用者も意見や気持ちを述べるので、職員はそれに基づいて対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務会議を開き、提案や意見をもら改善に努力している。	職員会議以外でも、さまざまな機会に意見や提案が施設長や管理者、あるいは職員間で出るので、それらは運営に生かされている。現行の職員勤務時間帯も、いろいろな意見を基に今に至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務会議で納得の行くところまで話し合い、常に働きやすい職場の環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を常に呼びかけており、研修で得た知識などを勉強会等で伝達し、知識を広めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	CM協議会や医療機関の行う研修会等に参加し、情報交換や連携を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式などを取り入れ、ご本人の表情、言葉を観察、傾聴しながら、ご本人との関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は、環境の変化に戸惑うことも多いので、来所の祭は、声かけし、ご家族が遠慮なく要望や意向が言えるような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の意向に沿って必要なケアができるように、他の事業所とも連携を図り、迅速に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りや季節の行事・食べ物など、利用者から教えていただきながら、家事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を密にして、ご本人を支える仲間として協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に情報を頂きながら、馴染みの場所へ出かけたり、また、ご家族の協力をいただきながら支援に努めている。 知人の面会も常時みられる。	家族に尋ねて、利用者の友人がいるなら車で迎えに行けることを申し出ている。自宅を訪ねたり、利用者がよく出かけていた桜の名所に行く支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファの席などに気を配り、利用者が関わられるように支援している。他の利用者さんをトイレへ案内して下さったりの場面がみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所など、面会にいたり、ご家族が来所されたりと交流は続いており、相談や支援にも応じる体制にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に沿えるように、ご家族と協力し連携を図りながら、取り組んでいる。	職員が生活で起きたことを話題にして利用者に話し、利用者が経験や提案を述べてくださるので、利用者をよく知る機会となっている。職員は、思いついたことをメモし、職員間で共有している。観察、表情の変化をとらえて、利用者の思いを知るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式などを取り入れながら、ご本人の生活歴、環境、また、言動や表情からヒントを得て、ケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、ご自分のペースで生活できるように支援している。そういうケアを実践することで、精神的に落ち着いた生活が維持できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者一人ひとりの具体的な介護計画を立てている。状態の変化に応じ柔軟に対応している。	3か月のモニタリング、6か月の計画書の見直しを行っている。最近入居された経管栄養が必要な方を除いて、利用者は良い状態が保たれているので、随時の見直しはこれまでのところ無い状態が続いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録も具体的に記録し、状態変化にも迅速に且つ、柔軟に対応ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援、状況に応じて、ご本人やご家族から相談、要望があれば、いつでも対応できる状態である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の祭にボランティア活動を利用し、日本舞踊など披露していただき、一緒に踊り楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と医療連携体制にあり、必要な場合には専門医への紹介も得られ、適切な医療を受けられる体制にある。	敷地内にある法人の医院に通院したり、医師が状況に応じて往診している。専門医への通院は、家族に管理者か看護師が同行して、医師に情報提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤し、夜間もオンコール体制である。状態が変化した場合には、速やかに対応している。また、他2名の准看護師を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師2名がケアマネージャでもあり、入退院時の連携体制も整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合と、看取りの指針を文書化して、契約時に説明している。状態変化時には、その都度、ご家族や医師を交えてインフォームドコンセントを十分に行い、納得の行く支援に努めている。	重度化や看取りの指針は、スタッフ全員が理解して対応できるようになっており、家族には初期の段階から説明し、随時状況の変化に応じて話し合いを設けるようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、管理者へ報告、指示を仰ぐ。日頃より、業務会議等で安全意識を高めるように事例検討を行い、実践に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防団、近隣の住民の協力を得て、防災訓練を実施している。様々な提案を頂きながら協力体制を築いている。	防災訓練がよく行われている。水害時の避難場所の確保や夜間火災を想定し、地域住民の参加を得ての訓練がなされている。その結果、地域の方の提案なども得られて、課題を克服し更なる改善を図る事柄も明確になっている。	消防団の連絡網もあるなど、地域の協力体制も出来ているが、明確になった改善点などに取り組み、実際のかつ安全な体制作りになることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に、利用者一人ひとりを尊重し、対応している。その人にとって、呼びなれた名前前で声かけしたり、ご家族の了承も得て対応している。	職員は、出勤したときは一人ひとりにあいさつし、また、終わるときも同様に利用者一人ひとりにあいさつをして帰っている。家族が用いていた呼び方を家族の了解の下に使用している。居室への入室は、声かけをしてから行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースに合わせて、その人にわかり易い言葉や方法、時には、ジェスチャーを交えて、ゆっくり寄り添う時間を確保している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等への参加は、決して無理強いせず、本人のペースで過ごせるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの理容室を利用したり、希望があれば職員が顔そりや散髪を行っている。洋服はご自分で選んで頂き、好みの服を買いに出かけたりも支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園に野菜を採りに行ったり、食器の片付け、皿洗い、テーブル拭きなど、参加していただいている。採って来た野菜はなるべく、すぐに、食べられるようにしている。	職員も利用者と同じ食事を食べ、楽しい歓談の時間となるようにしている。可能な利用者には、配ぜんやテーブルふき、食後の後片づけを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立をもとに、栄養バランスが取れるように配慮しているが、状況を見ながら更に、工夫している。また、水分量や排泄のチェックも管理しながら、体調管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合った方法で行っている。うがいや歯磨きのできない利用者の方には、ガーゼや口腔スポンジでケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は排泄パターンや行動を見極めながらトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。夜間帯はPトイレ使用したり、リハビリパンツやパッドを利用し、安全、安眠への配慮をしている。	排せつパターンを利用したトイレ誘導を行っている。夜間もパターンと居室からの音で判断して支援しているが、利用者が熟睡しているときは時間をずらして、様子を見ながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、腹部マッサージなどを行い、なるべく自然排便をし促しているが、必要な場合には、緩下剤を使用している。野菜ジュースなど、食物繊維も摂る工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば、毎日でも入浴できる体制にはあるが、現在は、一日置きの入浴を実施している。ご本人がゆったりと寛げるように、本人の好みの湯加減などにしている。	柔軟な対応ができるようになっている。入浴時間は、心を開いてもらえる対話の良い機会となっているので、職員も同じような気持ちで支援している。利用者を知る良い機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の原因を推測し、原因を除去。ご本人に寄り添い、必要時は温かい飲み物で気分を和らげるなどして、気持ちよく眠れるように支援する。必要時には、眠剤を服用していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤シートがファイルしてあり、いつでも確認できる状態である。必要時には掲示して、全職員に分かり易く伝えている。また、症状の変化や”なんかおかしいなあ”と感じた時には、気兼ねなく看護師に報告・相談できる体制にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で洗濯物たたみ、新聞折り、野菜の収穫などを手伝っていただき、日常生活の中に出番を作り出すような取り組みをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で散歩したり、一緒に買い物に出かけたり、また、全員での外出の機会を設けている。ご家族との外出や外泊も自由に行っている。	ホームの周りの敷地に余裕もあり、近くには公園もあるので、散歩が日常的に行われている。全員でファミリーレストランに行く計画を立て、席を予約し、メニューも前もって借りてきて行ったことがある。利用者全員が完食し、喜びの外出支援になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には、ご家族の許可を得て行っている。また、買い物の支払いはご本人ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人の希望により、何時でも掛けられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室から見える菜の花畑やコスモスなどは、季節感をたっぷり味わえる。閉塞感もなく、ゆったり寛げるスペースである。	玄関に季節の鉢植えがあり、リビングの壁には季節感のある飾りが貼ってある。採光もまばゆくなく、温度の管理も行われている。トイレ、浴室、居室など、ホーム全体に異臭はなく、利用者の気分を損なうことがないように配慮がなされている。月日、曜日は、手作りの大きな紙に書いたものである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置やクッション、ぬいぐるみを活用し、思い思いの場所でゆったり過ごせるように環境を調整している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の面会の際には、居室にてお茶を飲みながら過ごしていただき、居心地の良い居室のアイデア等をいただきながら、改善に取り組んでいる。	自宅から持ってきた物もあるが、全室質素である。家族と話し合いをして、利用者の写真を持ってきてもらい、思い出話を聞いたり、共に好きだった歌手のカレンダーとCDを息子さんが持参されるなどの変化が生じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム玄関の壁には、利用者さんの写真が展示しており、ご家族の来所の際には利用者さんのホームでの日頃の様子をお知らせするのに活用している。		